

第三回松山市文化施設の在り方検討会(概要)

- 開催日時:令和8年2月6日(金)15:00~16:00
- 開催場所:松山市役所 別館6階 第3・4委員会室
- 出席者:土居英雄委員、本田元広委員、郡司島宏美委員、池田慈委員、丹下正英委員、羽鳥剛史委員、淡野寧彦委員、前田眞委員、森隆一郎委員
中矢斉オブザーバー(代理)、家串正治オブザーバー、矢野博朗オブザーバー
- 調査業務委託受託業者:株式会社シアターワークショップ
- 議題等:
 - 調査業務委託のスケジュールについて
 - 文化ホールの整備フローについて
 - 松山市民会館の閉館時期及び文化施設の在り方に関する意見交換
 - 空白期間中の支援策に関する意見交換

■会議概要

1 開会
2 調査業務委託のスケジュールについて
<p>○資料1に基づいて事務局から説明。委員から次の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none">・文化団体への対話型ヒアリングは、要望書を提出した団体だけでなく、できるだけ広く丁寧に意見を拾い上げてほしい。学校は大人数で公演することがあり、市民会館が閉館すると困る団体もあるため、対話型ヒアリングの対象にしてほしい。・文化団体へのアンケートでは、市民会館を利用している団体や、松山芸能文化協会も調査対象にしてほしい。・市民ワークショップなど直接声を聞くことで、市民アンケートには書けない意見も拾えるのではないかと。・どんな施設が求められるのかという視点に立ち、文化から広がる周辺領域の声も聞いてみては。有識者が推薦する場所や地域創造大賞を取った施設を視察すると、近年の文化施設が文化団体のためだけに造られたものではないことが分かり、ロビー空間の作り方も参考になる。
3 文化ホールの整備フローについて
<p>○資料2に基づいて事務局から説明。委員から次の意見があった。</p> <p>委員 機能・規模を整理した後に候補地を決めると捉えたが、候補地によってどう設計するか変わるため、両輪で進めるべき。</p> <p>事務局 いくつか候補地を検討している。今後、代替となり得る施設の調査結果などを踏まえて、機能や規模、数を決める中で、それに合った候補地を示したいと考えている。</p> <p>委員 資料2で施設の運営は指定管理者を選ぶ形になっているが、直営の可能性もある。</p>

4 松山市民会館の閉館時期及び文化施設の在り方に関する意見交換

○資料3に基づいて事務局から次のとおり説明。

(前回提示の①案(令和8年度末閉館)から閉館を1年延ばす9年度末までの使用について)

- ・ 市民会館は空調設備等の経年劣化が進み、特に中ホールの送風機の老朽化が著しい。令和9年度末まで施設を適切に維持管理するためには、空調設備、特に中ホールの設備の負荷を低減する必要がある。
- ・ そこで、令和9年度は、大ホールと中ホールの同日利用を終日中止し、空調の同時利用を避けることで、設備への負荷を抑え、故障のリスクを低減する。
- ・ あわせて、「予防保全」と「事後保全」を行い、適切な維持管理を続けることで、令和9年度末(10年3月31日)まで市民会館の運営を継続し、同日付で閉館する。

○事務局の説明を受け、閉館時期について次の質疑があった。

委員 令和9年度末閉館の場合に必要なコストは。

事務局 現在、指定管理者や技術職員と検討中。

委員 空白期間は何年になるのか。

事務局 最短で7年程度。

委員 コストや敷地面積の目安がないと、最終的に建設できないということになりかねない。具体例を示してもらったうえで議論するのが良い。

事務局 現在、委託業者と調査しており、改めてお示しする。

委員 ホールの空調の負荷が厳しいとのことだが、リハーサル室や練習室は個別の空調であり、耐用年数まで長く使えるのでは。

事務局 空調に限らず、電気や給排水を含めて施設全体の配管が劣化している状況であり、全てを更新することはできないため、部分供用は行わず、全館閉館を考えている。

○閉館時期について、検討会の考えを集約するにあたり、次の意見交換があった。

委員 利用団体の立場からすると、空白期間は松山市民や周辺市民、愛媛県民の文化的損失になることから、空白期間の長さや費用とのバランスを考慮し②案(令和12年度末閉館)を進めてほしい。

委員 提示された金額がどれだけ市の財政を圧迫するか把握していないが、同様の理由で②案に賛同したい。

委員 令和9年度末閉館が良いと考える。その場合、一部開館することはせず、全館閉館で区切りを付けないと運営側はたまらない。

委員 さまざまなリスクと予約の都合を考慮し、①案から1年延長する検討を前回依頼した。市の説明を受け、令和9年度末で区切りをつけた方が良いと考える。

委員 令和9年度末で区切りをつけることに賛成する。厳しい道であるが、新しい体制に移行するという視点からも区切りをつけることに賛同する。

委員 ②案でも3年半程度の空白期間がある。②案の経費 7.4 億が高いのか安いのか分

からず揺れている。仮にアリーナが先に建設されるのであれば、音響機材を使うイベントはアリーナに持っていくなど役割分担ができると思ったが、同じようなスケジュールとのことなので、①案をベースに進んでいくのが良いと思う。

委員 個人的には③案(令和18年度末閉館)だが、令和9年度末に閉館としたときの代替機能を今は考えていきたい。

委員 市民会館の現状を踏まえると令和9年度末が限界と考える。その後の空白期間の検討に切り替えて次に進む、新しい施設を作っていくことを市民に情報発信すべき。空白期間中に活動する人が減って活動が衰退しないよう、新しい人材を育てることも必要。

○意見交換で挙がった内容を次のとおりまとめた。

(まとめ概要)

委員 総意ではないが令和9年度末閉館というのが概ねの意見であったかと思う。ただし、委員全員が手放して賛成ではないということを尊重したうえでのまとめとした。

○文化施設の在り方について、次のような意見があった。

委員 文化施設をまちづくり政策のなかでどう位置付けるかで施設の場所も変わる。中心市街地活性化の基盤にしたいのであれば郊外に建設すると趣旨が違ってしまふ。

委員 新しい施設の整備に向けて、今あるもの全てを新しい施設に持っていくのは難しい。必要ないものをそぎ落とすことを念頭に置いた整備が必要。代替施設を利用して、そこで対応可能となれば、新しい施設に必要なものの気づきにもつながる。

委員 代替施設で開催できない事業が、数年開催できずにいると「なくてもいい」につながってしまわないか懸念する。代替施設での実績で事業の必要性を全て決めてしまわないようにしてほしい。

5 空白期間中の支援策に関する意見交換

○資料4に基づいて事務局から説明。

(他施設事例等をふまえて検討する支援策の例)

- ①代わりとなる施設の周知
- ②代わりとなる市有施設の機能強化
- ③市による活動機会の提供
- ④使用目的による役割分担
- ⑤その他(相談窓口の設置、代替施設を利用した場合の利用料助成等)

○空白期間中の支援策について、次のような意見があった。

委員 代替の既存施設の利用者とのスケジュール調整も不安なので、その点も考慮して

	ほしい。
委員	代替施設の周知は、市内施設だけではなく、官民間わず近隣市町の施設も含めることが望ましい。
委員	空白期間が長いため、プレハブのような施設を仮設で建てることはできないか。建設前まで事業で使うことで市民に活動をアピールできる。また、移動型の機材セット(モビリティ)を用意するなどして、市内各地で事業ができないか。
事務局	仮設施設はこれまでも意見としてあった。今後、移動型の機材セットなどは研究するとともに、アウトリーチでこちらから出向いていくことも検討する。
委員	空白期間が長くなるのであれば、代替施設に求められるクオリティは上がる。代替施設に良いピアノを入れるなどの検討も必要。仮設やまちなかでのパフォーマンスもいいが、響きの良い場所がないとクオリティの高い音楽は生まれない。ホールでのパフォーマンスも支援が必要で、機会を拡充してほしい。
委員	前回「松山市の文化を絶やさない」、「こういふときだからこそ文化が育まれる」という意見があった。こういふときだからこそその支援策も踏み込んで考えてほしい。空白期間に市民に負担をかける以上、文化団体が安心できるプラスαの取組があるとよい。中間支援や伴走支援の体制や場があるとよい。
委員	中間支援組織の必要性に賛同する。人材と、共創の場で生まれた発想を実施できる予算枠が必要。
委員	空白期間中に何らかの拠点は必要と考えるが、それが「場所」となると、仮設施設は短期間となり、費用や継続性の点で難しい。中間支援団体が色々な団体をまとめる拠点の「組織」となり、空白期間を繋ぎとめられるとよい。
事務局	中間支援は専門人材の確保や予算措置などさまざまな課題がある。整理して検討する。
6 その他	
○次回の検討会開催の案内。	
7 閉会	